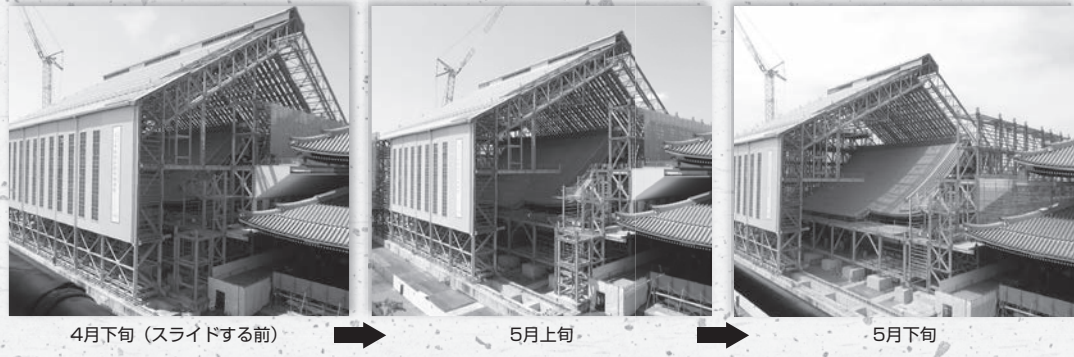


阿弥陀堂仮設素屋根解体工事の進捗状況(4月下旬～5月下旬)

解体工事は順調に行われております。現在は、阿弥陀堂が約半分見えてきました。



4月下旬 (スライドする前)

5月上旬

5月下旬

「本願寺水道を歩こう - 2015」を開催

5月23日(土)、東本願寺と環境を考える市民プロジェクト主催によるウォーキングイベント「本願寺水道を歩こう」が開催されました。

真宗本廟(東本願寺)は1602(慶長7)年に境内をこの地に定めて以来、四度にわたって焼失と再建を繰り返しており、明治期の両堂再建時に火災への対策として整備されたその代表的な設備が、琵琶湖疏水から東本願寺境内にまで引かれた「本願寺水道」です。

当日は、初夏の陽気の中を、本願寺水道の貯水池がある三条蹴上(京都市左京区)から東本願寺境内に至るまで、4.6キロメートルの行程を約30名の参加者とともに歩きました。参加者は、はじめに琵琶湖疏水や本願寺水道を設計した田邊朔郎氏の銅像前で、市民プロジェクトスタッフから疏水についてのレクチャーを受けた後、各ポイントでそれぞれ本願寺水道に関連した説明を受けながら歩きました。

また、学習会場として立ち寄った建仁寺では、「本願寺水道の歴史」や「本願寺水道の再生と活用」についてお話があり、歴史を知るとともに、損傷や腐朽により止水している現状や、保存・修復などの今後の活用について学びを深めました。

参加者からは、「本願寺水道は驚くべきことにわずか45日間で竣工されていることに感銘を受けた」、「実際に歩いて見るだけで半日かかる規模でしたが、当時の技術者の熱意と、本願寺を守ろうとする人々の思いの強さを感じることができた」等々の感想が寄せられ、先人の努力に思いを馳せ、あらためて防災意識を高めた一日となりました。



本願寺水道の貯水池(三条蹴上)



田邊朔郎氏銅像前でのレクチャー



本願寺水道の配管を見学(五条大橋の下)



御修復のあゆみ 〜 伝承された先達の願い

御影堂門屋根の瓦葺きがほぼ完了

御影堂門の屋根瓦は、御修復工事の調査において、これまでの御影堂・阿弥陀堂の屋根瓦と比べ、状態が概ね健全であったことが確認されたため、そのおよそ半数以上が再利用されています。

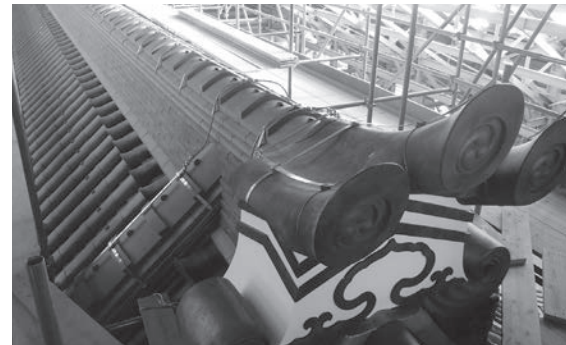
御影堂と同じく上下二層の威容を誇る御影堂門の屋根瓦ですが、中でも大棟獅子口瓦は、四つの瓦が組み合わされており、また構成

する個々の瓦も非常に大きいため、境内の中でも最大級の大きさを誇ります。御影堂門では二〇一四年の十月半ばから瓦の葺き上げ作業が開始

され、約八カ月をかけて上層・下層ほぼ全ての屋根瓦が葺かれました。瓦葺きを終えた現在の御影堂門の屋根瓦の様子を写真でお伝えします。



獅子口瓦を設置



葺き終えた獅子口瓦



瓦葺きを終えた屋根瓦(上:上層部、下:下層部)

